

せっかち 園長の ひといごと

2016、9、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

9月24日（土）に、第2回 **子ども・子育て市民フォーラム** が開かれました。都合をつけて参加して下さった皆さん、そして第3部のパネラーとして壇の上に上がってお話ししてくれた田中さん、黒澤さん（ともに本園の保護者です）、本当にありがとうございました。



今回のフォーラムのテーマは、「子育てするなら佐野市だよ」。もちろん、佐野だけ良くなってもダメな話で、ポイントは、地域で子育て・保育・教育を盛り上げていきたいと思いますという会でした。

その意味では、小さい子連れの方含めてたくさんの親・市民の方たちの参加があり、「子育てするなら佐野市だよ」という感じが伝わってきました。

欲を言えば、会社や企業の方たちの参加が、もっとあったらよかったですね。会社や企業の方というのは、いわゆる事業主（社長など）の方たちのこと。・・・**いろいろな調査やデータが言っているのは、父親や家族の育児参加が子育ての苦労を減らし、結果的に出生率を向上させるということ。**もちろん社長や管理職だけの問題ではなく、働く人本人の問題でもあるのですが、もっと早く退社して子どもと関われる社会にしたいものです。

日本人の労働時間は、国際比較の中でも長い方です。

☆ちなみに OECD（経済協力開発機構）のデータ（2012）では、日本は長い方から15番目だそうです。労働時間が短い国は、オランダ、ドイツ、ノルウェイ、フランス、デンマークなど、やはり少子化問題に早目に取組んでいるヨーロッパの国が多そうです。

ちょっと難しいことを言うと、“働き方”の改善が、実は少子化対策の中でかなり重要だということ、子育てに今、直接関わっていない日本の方たちが理解していない、ということ。・・・これが大きな課題になっているのです。小さい子どもが2人いるのに一週間後に遠くの街に転勤など、長時間労働の問題以外にも大変なことが、日本の子育てにはたくさんあります。**まずは今回のようなフォーラムから、今、直接子どもに関わっていない人たちも含めて、子育ての輪を広げたいものです。**

さて初めの話題です。

子どもが**いっばし**の大人の間になるために、必要なことはたくさんあります。

まず遊び

私が皆さんによく言うのは、子どもは子ども時代に思いっきり遊ぶこと。・・・でもこれはいつも言っているのだから、今回は遊びについて省略します。

次に、大人たちが暮らしを作っているところを見る

今回は、これについてお伝えします。

これは簡単に言うと、パソコンや人工知能、ロボットなど便利なものがたくさん発明されますが、子どもにとっては、**昔の道具が生活で使われる様子**を見る・触るなどして、追体験する必要があるということです。

難しく言うと（理屈っぽくても読んでくださいね）、『**反復説**』の問題なのです。『反復説』というのは、一人の人間の誕生・成長は、人類の進化のプロセスを繰り返す、というものです。母親のお腹の中で誕生した生命は羊水という海の中で暮らす魚⇒ そしておぎゃあとって生まれて来た赤ちゃんは肺呼吸になった生き物（何でしょうか？）⇒ そしてハイハイし始めた子どもは爬虫（ハチュウ）類⇒ 高ハイする子どもは哺乳（ホニウウ）類⇒ そして、道具を使い始めた子どもは、人類・・・。

これはもちろん、例え話です。しかしこれは、とってもヒントになるのです・・・道具を使い始めた子どもが最初の人類ならば、3歳児はどのような人類なのだろうかと考えます・・・私はそれは、きっと、縄文人だろうと思うのです。3歳児は、縄文人！？

もうお分かりですよ？ 『**反復説**』の問題というのは、文明の最先端に囲まれた生活の中で、縄文時代の人間が暮らさなければならぬということ。ぜひ、想像してみてください。現代社会にタイムマシンで、いきなり縄文人が来てしまったら・・・。

なので私は、3歳児に限らず幼児期の子どもは、（縄文人なのだから）どろ遊びや虫取りや木登りなどで、たくさん遊ぶべきだと思うのです。

と同時に、子どもたちは、**昔の道具が生活で使われる様子** に触れる必要があると思うのです。



そこでアピールしたいのが・・・

皆さんご存知の「泥工房（でくのぼう）」。

そこで使われている窯は、穴窯（あながま）といって、形としては古墳時代（5世紀前後）の窯です。

3歳児が縄文時代に生きる人なら、5歳年長組の子どもたちは古墳時代に生きる人たち、かな？

☆ところで皆さん、知っていますか？ あかみ幼稚園・メイプルキッズの周りには、古墳がいっぱいあるのですよ。

例えば、園南側道路にあるラーメン屋さんの隣など。



突然、会員の募集みたいになってしまっていて申し訳ないのですが、焼き物（陶芸）サークル「泥工房（でくのぼう）」で、子どもたちと**昔の道具が生活で使われる様子** を楽しみませんか？ 会員にならなくても、体験もできます。ちなみに私・園長は、ユウレイ（幽霊）会員。

ユウレイ（幽霊）会員でも、ちょっとだけ自慢話していいですか？ 私が「泥工房（でくのぼう）」に入って使えるようになった道具・・・

①チェーンソー（木を切ります） ②薪割り（斧のようなもの） ③左官屋さんが使うコテ（下手ですが） ④レンガを割るタガネ など
とくに薪割りは、その当時園児のおじいちゃん（薪割りの、まさに名人！）が会員にいて、よく教えてもらいました。今はエンジン式の薪割り機がありますが、その頃は皆で、手で（薪割りで）割っていました。私も結構、割れますよ。長時間。そしてかなり太い丸太も。

焼き物（陶芸）サークルというと、芸術性が求められる・・・というも向きも もちろん結構なのですが、私は道具（昔の）が使える大人になれる、そしてその様子を、子どもたちに見せることができる・・・「泥工房（でくのぼう）」には、そのような意味もあるのかなと思うのです。 **父・母・祖父母そして子どもたち・・・、ご家族で、物作りを楽しみませんか？**

最後に・・・運動会の雰囲気、だんだん・・・

まずは3・4・5歳の子どもたちからですが、クラスや学年で「みんなのはらっぱ」（3・4・5歳の運動会会場）に出かけるようになってきました。だんだん園が、運動会の雰囲気になってきました。さて、8月の「ひとりごと」で・・・、

（前略）なので、私たちは行事のために、子どもを特訓で苦しめることはしません。楽しくやっていると、いつの間にか（結果的に）、それが「ミニミニ運動会」や「運動会」になる。そして結果的にそこで、子どもたちは、育ちの階段を一段階ステップアップする。・・・そんなイメージで、私たちは行事を考えています。

と、言いました。このことだけ読むと、「へー、そうなんだ」で終わってしまうかもしれませんが。でもここでは、行事というものが、保育の現場で、ときには子どもと保育者を苦しめてしまう現実があるということを、ちょっとだけ お伝えします。

けっして、どこかの園の悪口とか批判ではないので、誤解しないで読んでくださいね。この話題は、ずいぶん昔の毎日新聞で読んだ記事に関するものです。この記事は、音楽に関する行事について書いてありました。親や家族が見に来る、音楽の発表をする行事の練習（“特訓”）がピークになった頃、ある子どものカスタネットには綿がつめられ、ある子どものハーモニカにはセロテープが貼られていた・・・というエピソードが、私の胸をグサッとさしました。

はじめはただ、何てひどい保育者だ！と思いました。子どもは被害者、保育者は加害者・・・でも、すぐに思いが変わりました。保育者も被害者ではないか、と。私がこの記事を読んだのは学生の頃。本当に昔のことで、今は、こんなひどいことは起きていないかもしれません（そう、願います）。そして、ますます そう思うのは、子どもがやりたくて、楽しくて その行事や活動に向かうことが、当たり前だけど、本当に大切にされなければならない、ということです。下に紹介するのは、懇談会（3・4・5歳）の資料から。運動会の時期、保育の中の行事というものを考えてみませんか？



他園のお子さん : 『幼稚園、運動会の練習が大変で嫌になっちゃう。行きたくなくなっちゃうんだ。』

あかみ幼稚園のお子さん : 『あかみ幼稚園では、楽しく遊んでいると、いつのまにか運動会になっちゃうんだ。』